

- 問1 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といいますか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|----------|-----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 分国法 | 3. 御成敗式目 | 4. 公事方御定書 |
|----------|--------|----------|-----------|
- 問2 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。 | 2. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。 | 3. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。 | 4. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。 |
|---|--|--|--|
- 問3 「甲州法度之次第」と呼ばれる分国法を制定し、領国内の統治を強化した戦国大名は誰か。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 上杉謙信 | 2. 武田信玄 | 3. 織田信長 | 4. 足利義満 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問4 室町時代後期、応仁の乱をきっかけに幕府の権威が衰えると、実力で領地を拡大する戦国大名が登場しました。彼らが自らの領国内の武士や民衆を統治し、秩序を維持するために独自に定めた法を何といいますか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|-----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 御成敗式目 | 3. 公事方御定書 | 4. 武家諸法度 |
|--------|----------|-----------|----------|
- 問5 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。 (2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|------------|-------------|------------|
| 1. フランシスコ＝ザビエル | 2. マテオ＝リッチ | 3. ルイス＝フロイス | 4. ヴァリニャーノ |
|----------------|------------|-------------|------------|
- 問6 1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主な要因として正しいものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|-----------------------------------|--|
| 1. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため | 2. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため | 3. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため | 4. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため |
|--|---|-----------------------------------|--|
- 問7 戦国時代の社会や法律について説明した文章として、「朝倉氏が城の建築を制限する規定を設けたことや、武田氏が喧嘩両成敗の原則を定めたことなど、大名が独自に定めた規定が存在した」という記述があります。この記述の説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|
| 1. これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。 | 2. これは室町幕府が守護大名の権力を強めるために制定した建武式目に関する記述である。 | 3. これは江戸幕府が成立した直後に各大名を統制するために出された武家諸法度に関する記述である。 | 4. これは鎌倉幕府が御家人同士の土地の紛争を裁くために制定した御成敗式目に関する記述である。 |
|---------------------------------------|---|--|---|
- 問8 石見銀山から産出された銀は、16世紀後半から17世紀初めにかけて世界の銀産出量の約3分の1を占めていたとも言われています。この銀山で生産を支え、日本の銀が国際社会へ大きな影響を与える要因となった技術的背景として正しいものを選んでください。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 明治維新以降、フランスの技術を取り入れた宮営模範工場として整備されたこと | 2. たたら吹きという、鉄を精錬するための日本独自の製鉄法が応用されたこと | 3. 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと | 4. 足尾銅山鉍毒事件を教訓にした、公害を出さない最新の濾過技術が開発されたこと |
|---|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
- 問9 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 武田氏と上杉氏 | 2. 尼子氏と毛利氏 | 3. 島津氏と太田氏 | 4. 織田氏と今川氏 |
|------------|------------|------------|------------|
- 問10 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 観応の擾乱 | 2. 壬申の乱 | 3. 応仁の乱 | 4. 承久の乱 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問11 島根県に位置し、戦国時代から江戸時代にかけて大量の良質な銀を生産したことで知られ、2007年にはその歴史的価値が認められて世界文化遺産に登録された鉍山を選んでください。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 生野銀山 | 2. 石見銀山 | 3. 佐渡金山 | 4. 足尾銅山 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。 1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。 2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。 3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。 4. 織田信長が、室町幕府の将軍であった足利義昭を京都から追放した。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」 | 2. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」 | 3. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」 | 4. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」 |
|---|---|---|---|
- 問13 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 1. 藩 | 2. 荘園 | 3. 幕領 | 4. 領国 |
|------|-------|-------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問2	答え 4 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問3	答え 2 武田信玄	甲斐（現在の山梨県）を拠点とした武田信玄は、領国支配を確かなものにするため「甲州法度之次第」を定めました。この中には家臣団の統制だけでなく、大名自身の行動を制約する条文も含まれており、領国全体で法による秩序を作ろうとした点が特徴です。
問4	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名は自らの領国を自立して治める必要がありました。そこで、家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、年貢の徴収、婚姻の制限などを定めた独自の法である分国法（家法）を制定しました。なお、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度や公事方御定書は江戸時代の法です。
問5	答え 1 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問6	答え 1 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。
問7	答え 1 これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。	朝倉氏の城の建築制限や武田氏の喧嘩両成敗などは、戦国大名が家臣を取りしめり領国を支配するために定めた分国法の具体例となります。江戸時代の武家諸法度とは時期や目的が異なります。
問8	答え 3 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと	16世紀前半に博多の商人らによって朝鮮半島から伝えられた灰吹法（はいふきほう）は、鉛を使って鉱石から銀を取り出す画期的な精錬技術でした。この技術が石見銀山に導入されたことで、不純物の少ない高品質な銀の大量生産が可能になり、日本の銀が世界経済において大きな影響力を持つことになりました。選択肢にある「たたら吹き」は鉄、「官営模範工場」は富岡製糸場などに代表される近代化の動きを指します。
問9	答え 2 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問10	答え 3 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問11	答え 2 石見銀山	戦国時代から江戸時代にかけて、日本は世界有数の銀産出国でした。特に島根県の石見銀山は、16世紀に導入された「灰吹法（はいふきほう）」という新しい精錬技術によって生産量が飛躍的に増大しました。この銀は「ソーマ銀」とも呼ばれ、東アジアやヨーロッパとの交易においても重要な役割を果たしました。2007年に、環境に配慮した鉱山運営や流通の歴史が評価され、世界文化遺産に登録されています。
問12	答え 4 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」	平安時代中期の10世紀に起きた平将門の乱は、武士の実力と地方勢力の台頭を象徴する出来事です。その後、12世紀後半に平清盛が平氏政権を樹立し、武士として初めて太政大臣となりました。鎌倉時代の1232年には、承久の乱後の社会混乱を収めるため北条泰時が御成敗式目を制定しました。そして戦国時代末期の1573年、織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府は滅亡し、中世から近世へと時代が大きく動くことになりました。
問13	答え 4 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。